

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 スマイリーハーツ・アルファ		
○保護者評価実施期間	2026年9月1日 ～ 2026年 9月 16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年9月1日 ～ 2026年 9月 16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 9月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験を多くつめるようなプログラムを実施している	特に土曜日、祝日、夏休み期間など、イベント的なプログラムを実施し、児童がいろいろなことに興味を持ち、また公の場でのルールやマナーなどを学べる場としても、外に出ていく活動を多く取り入れている	放課後等デイサービスの通所児童との交流を通し、月齢が違う環境小集団にもなじめるような環境を作り就学準備に向けていく
2	小集団療育の中で子供たちが他者との関りが持てるよう、長時間療育を実施している	実際の生活の流れの中で「集中して取り組む時間」「座る時間」など小刻みの設定で少しずつ集団生活スキルが身につくようにしている	生活のペースが出来るよう、毎回同じ時間に決まったことをするように、お出かけやお散歩が入っても見通しが付く予定組みをしている
3	来所時には必ず個別課題に取り組む体制を整えている	来所して集中力が続く時間帯に「まずは座って静かに課題に取り組む時間」を設け「就学にむけての準備」を少しずつ習慣化している。プリントと指先課題は毎回違うものを準備して、子供たちが飽きないで集中出来るような課題を準備している	回数を重ねることによってどんどん出来ることが増えていく児童や準備した課題が難しすぎる場合など見受けられるので、児童一人一人の特性を理解して課題準備に取り組むようにしていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援室が大きな一つの空間なので切り替えの必要な児童が安心して過ごせる個別空間がない	相談室に入ることはできるが、気持ちを切り替えるには外の様子もうかがえる空間の方が良いのと、自分から入っていける空間の方が自己判断、自己選択につながると思うが現在はない	段ボールハウスのような小さな自分だけの空間からまずは設置してみる。また空間をパーテーションなどで区切って使用するなど、今の環境下の中で出来ることを考えていく
2	集団療育中印の中での個別支援の時間確保	小集団の中で伸ばしていきたい生活スキルの他、個々の特性に特化した個別支援の時間を確保したいが、様々なことに手が取られ一定の時間しか取れていない	現在、課題BOXを行うことにより個別に支援する時間を設けているが、その他にも、些細な変化がみられる時には時間を決めて個別に支援する時間を確保出来るよう職員間で共有しながら現場で判断し支援を行う等取り入れていく
3			